

1. 2021年1月～12月の気象概況

1-1 東海地方の天候の特徴

平均気温

2月から3月にかけて大陸からの寒気の影響を受けにくく、暖かい空気に覆われたため、月平均気温は「かなり高い」となりました。その他も「低い」となった月はなく、「平年並」または「高い」となりました。このため、年平均気温は「高い」となりました。

降水量

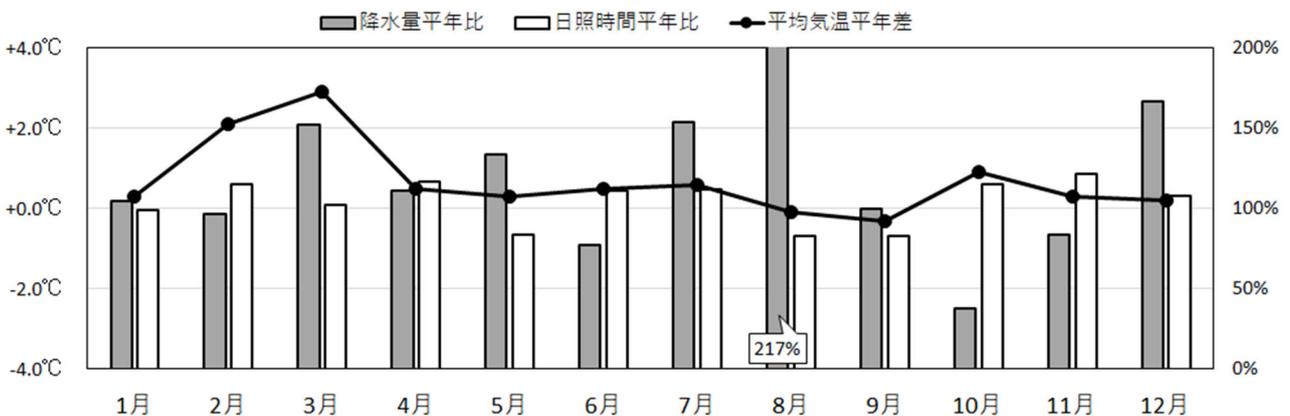
6月と10月は、高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、月降水量は「少ない」となりました。3月、5月、7月、8月、12月は低気圧や前線の影響を受けやすく、月降水量は「多い」または「かなり多い」となりました。このため、年降水量は「多い」となりました。

日照時間

5月、8月、9月は、低気圧や前線、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かったため、月間日照時間は「少ない」となりましたが、その他の月は高気圧に覆われて晴れた日が多く、月間日照時間は「多い」または「かなり多い」となった月が多くなりました。このため、年間日照時間は「多い」となりました。

※平均気温、降水量、日照時間については、東海地方平均の特徴を記述しました。東海地方平均とは、東海地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（14地点）の平年差・比を平均したものです。

東海地方平均の月の平均気温、降水量、日照時間の平年差・平年比の推移



1-2 月別の東海地方の天候

1月

上旬と中旬は冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多く、岐阜県山間部では曇りや雪の日が多くなりましたが、下旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

2月

冬型の気圧配置が長続きせず、高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、月間日照時間はかなり多くなりました。

3月

本州付近を低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。

中旬と下旬には、低気圧や前線の通過に伴って広い範囲で雨となり大雨となった日もあったため、月降水量はかなり多くなりました。

4月

上旬から中旬にかけては日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

5月

上旬と下旬は高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受けて天気は数日の周期で変化しました。中旬は低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日が多くなりました。

6月

上旬の前半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなり、後半は晴れた日が多くなり、南から暖かい空気が流れ込みました。

中旬は、低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日が多くなり、大雨となった所がありました。また、上空に寒気が流入し大気の状態が不安定となり、所々で雷雨となった日もありました。

下旬は梅雨前線が日本の南海上に停滞した日が多く、晴れた日もありました。

7月

上旬は梅雨前線が本州付近に停滞し曇りや雨の日が多くなりました。大雨となり土砂災害が発生した所もありました。

中旬には梅雨前線の活動が次第に弱まり、下旬にかけて太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、上空の寒気や湿った空気の影響で雷雨や局地的な大雨となった日もありました。

8月

上旬は太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、湿った空気や台風、低気圧の影響で曇りや雨となった日もありました。

中旬から下旬前半にかけては前線が本州付近に停滞したため、雨の日が多くなりました。特に中旬中頃には前線の活動が活発となり記録的な大雨となりました。下旬後半には太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

9月

上旬から中旬にかけては、低気圧や台風、前線、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

10月

上旬は、高気圧に覆われ晴れた日が多くなりました。中旬以降は、天気は数日の周期で変化しました。

11月

月を通して高気圧に覆われた日が多く、中旬以降は前線通過後に西高東低の冬型の気圧配置となった日がありました。

12月

冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

月の後半は岐阜県山間部では曇りや雪または雨の日が多くなり、下旬後半には強い寒気が流入したため大雪となった所がありました。

1-3 梅雨

梅雨入り： 6月 13日ごろ 「遅い」 (平年： 6月 6日ごろ)

梅雨明け： 7月 17日ごろ 「平年並」 (平年： 7月 19日ごろ)

5月は中旬に前線や低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多くなりましたが、上旬と下旬は高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受けて天気は数日の周期で変化しました。6月上旬は、高気圧に覆われやすく晴れた日が多くなりましたが、6月中旬以降は前線の影響を受けやすく曇りや雨の日が多くなり、東海地方は平年より遅い6月13日ごろに梅雨入りとなりました。

梅雨前線は、6月下旬には本州付近の南海上に南下しましたが、7月上旬には本州付近まで北上し停滞して曇りや雨の日が多くなりました。中旬前半には梅雨前線の活動が次第に弱まりましたが、上空の寒気や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり曇りや雨の日が多くなりました。中旬後半には太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多くなり、東海地方では7月17日ごろに梅雨明けとなりました。

梅雨の期間は34日間で、梅雨期間を含む6月から7月の2か月の東海地方平均の降水量平年比は115%で、「多い」階級となりました。

梅雨の時期(6月～7月)の各地の降水量(mm)とその平年比(%)

地点名	降水量 (mm)		平年比(%)
	2021年	平年値	
高山	356.0	431.3	83
岐阜	476.5	494.6	96
名古屋	449.5	397.9	113
上野	450.5	388.6	116
津	465.5	375.7	124
伊良湖	449.0	339.2	132
浜松	547.0	433.8	126
御前崎	430.5	478.6	90
静岡	654.0	565.5	116
三島	656.5	436.1	151
尾鷲	777.0	841.8	92
石廊崎	603.5	440.1	137
網代	620.5	494.0	126
四日市	462.5	457.0	101
東海地方平均			115

※「高い(多い)・「平年並」・「低い(少ない)」の範囲は、平年値の統計期間(1991-2020年)の値から求めています。30年間のデータ(たとえば1月の月平均気温であれば1991年1月、1992年1月、…、2020年1月の30個)の中で、高い(多い)方からおおよそ10番目までのデータの値の範囲を「高い(多い)」、11～20番目まで値の範囲を「平年並」、21番目以降の値の範囲を「低い(少ない)」としています。また、高い(多い)方から3番目までの値の範囲を「かなり高い(多い)」、28番目の値以降の範囲を「かなり低い(少ない)」としています。梅雨の時期の「早い」や「遅い」の範囲もこれに準じています。

1-4 台風

台風発生数は22個で平年を下回りました。上陸数と東海地方への接近数はともに3個で平年と同程度となりました。東海地方に接近した台風は第9号、第10号、第14号で、第9号は九州南部から中国地方に進み温帯低気圧に変わりました。台風第10号は日本の南海上から東海道沖を北上しました。台風第14号は九州北部から紀伊半島に進み温帯低気圧に変わりました。

※東海地方に接近した台風とは、その中心が東海地方のいずれかの気象官署及び特別地域気象観測所（富士山を含めた15地点）から300km以内に入った台風を指します。

台風の発生数・上陸数及び東海地方への接近数

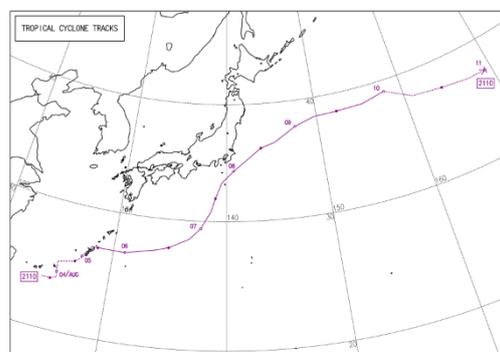
	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
2021年	発生数	0	1	0	1	1	2	3	4	4	4	1	1	22
	上陸数	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
	東海地方への接近数	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
平年値	発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
	上陸数	-	-	-	-	0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3	-	-	3.0
	東海地方への接近数	-	-	-	-	0.1	0.2	0.6	0.8	1.2	0.7	-	-	3.5

※接近は2か月にまたがる場合があります、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しません。

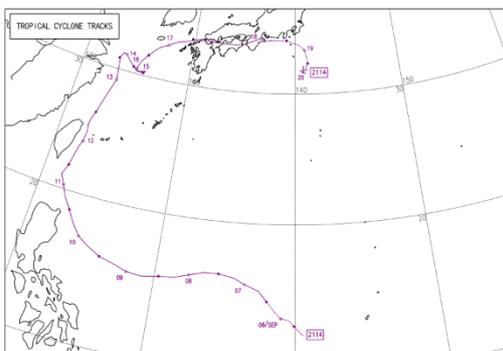
東海地方に接近した台風の経路図



台風第9号（8月3日～8月15日）



台風第10号（8月4日～11日）



台風第14号（9月6日～20日）

※日付は経路図に記載した期間であり、台風であった期間とは異なります。

